



新政会
井上 正雄

財政健全化について

質問 本市の固定的な支出の割合を示す経常収支比率が全道的に見ても非常に高い。市政執行方針に財政健全化計画の策定とあるが、いつまでに策定するのか。また、事業の見直しなど総合的に考えるべきと思うが、考えを伺う。

答弁 財政健全化計画は、来年度予算に反映できるよう年内の策定を目指します。策定に当たっては、事業効果を検証した上で事業の見直しを行い、職員数、人件費も含めて総合的に検討します。非常に重要な課題であり、慎重に取り進めていきたいと思っています。

農業を起点とした地域産業、つくりについて

質問 農業振興において、企業との連携推進をどのように進めるのか伺う。

答弁 近年、異業種からの農業参入が見られるなど、農業を取り巻

く環境が変化しつつあります。これまで、本市における産業振興、企業誘致のテーマを「食と農」に据えてきましたが、さらに雇用の場の創出を最重要課題とする地方創生の取り組みを進める上でも大きな柱となるのは農業と考えています。農商工連携を一層進めるためにも、農政部と経済部を発展的に統合し、企業との連携を進める中で雇用の場を創出するとともに、本市の基盤となる産業の育成に努めていきます。

観光振興について

質問 集客・交流事業の推進について、菜の花観光など、外国人も含めて観光客数が増加傾向にある。そういった中で、観光案内、情報発信のハード面の整備が必要と考えるが、JR滝川駅、バスターミナル、商店街へのWiFiの設置などについて伺う。

答弁 今年度の菜の花観光に12万人が訪れ、そのうち880人の外国人観光客の入り込みがあったと聞いています。今後、WiFi設置などハード面の整備を関係機関や団体と連携を図り、進めていき

たいと考えています。

スポーツセンター改修について

質問 スポーツセンター第1・第2体育館の改修について伺う。

答弁 耐震性の確保を最優先し、安心してスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、避難所機能も兼ね備えた施設に改修します。

エネルギー政策について

質問 本市はエネルギーの街である。今後、さらなる自然エネルギー、再生可能エネルギーの事業化の可能性について、①太陽光発電、②風力発電、③水素エネルギー、④バイオマス、⑤環境、エネルギーに関する研究施設の必要性について伺う。

答弁 ①太陽光発電は、固定価格買取制度の促進期間が3年を経過し、この間、本市では遊休地に4か所のメガソーラーが実現するなど普及が進みましたが、今後は条件面などから難しいと考えます。②風力発電は、江部乙町の丸加山で風況調査を行い1年が過ぎましたが、さらにもう1年調査を継続中です。③水素エネルギーは、最

近注目を浴びており、本市としても具体的な調査を始めます。④バイオマスについては、可能性は低いと考えています。⑤環境、エネルギーに関する研究施設は、本市で進める考えはありません。

國學院大學北海道短期大学部との連携について

質問 今年度の入学者が大幅な定員割れとなった。18歳人口が減少し、非常に厳しい状況を迎え、本市として短大部誘致の原点に立ち、具体的な支援策を強力に進める必要があると思うが、考えを伺う。

答弁 非常に厳しい時代を迎えており、これまでの滝川西高と短大部との高大連携や市と短大部との災害時の協力などの個別連携から、今後は今までの連携を含めた包括連携（地域振興、街づくり、人材育成、教育の質の向上、経営の安定化、教育サービスの拡大など）を締結する予定です。

地域とより密接に連携しながら、短大部の展望を開いていくことが重要であり、経済界との協力を深め、実現可能な連携を進めたいと考えています。